

入試年度	2026	入試方式	一般（秋季）	課程	博士前期
研究科	文学	専攻	史学	領域（分野）	西洋史学
出題のねらい・評価ポイント					
I A 古代ギリシア史研究の主要テーマの一つであるペルシア戦争についての知識を問うというのが出題のねらいです。まずは本文を訳し、次いでその内容と自身の知識とを合わせて解答を作成することが求められています。下線部は2回のペルシア戦争の両方を指しています。本文の記述が第2回中心のもので、まずはその内容を説明すること、次いで、第1回の内容や、戦前の状況、戦後の変化等にも言及することが解答のポイントです。 B （1）中世ヨーロッパの都市に住む個々人の経済状況が、必ずしも都市共同体自体の盛衰とは一致しない、という著者の見解について問うています。下線部以下で述べられている英文の説明を正確に理解して整理できるかどうかポイントとなります。 （2）都市の盛衰と人口の流入・流出との相関関係について、著者の見解を参考にしつつ、歴史的に論じることを問うています。西洋史上の事象から適当な事例を探し出したうえで、正確な知識に基づいて具体的に説明できるかどうかポイントとなります。 C 課題文は、人類史上においては、戦争に関わって考案された技術が国家の制度を形成あるいは改変することにつながり、それがさらに社会・経済のありようにも大きな影響を与えてきた、と述べています。設問（1）については、歴史に関する知識を前提にして、課題文の趣旨を正確に読み取り、和訳をすることがポイントです。設問（2）については、課題文の趣旨に当てはめる形で、歴史上の具体例を取り上げて論じることがポイントです。 II A (1)ペルシア戦争とともに古代ギリシア史研究の主要テーマの一つである、ペロポネソス戦争についての理解度を問うことが出題のねらいです。アテネ率いるデロス同盟と、スパルタ率いるペロポネソス同盟との二大陣営に分かれての戦争であるなどの、基本的内容を押さえていることに加え、戦前・戦後の状況にも言及していることが解答のポイントです。 (2)ローマ帝政期を研究する上で欠かすことのできない存在である、初代皇帝アウグストゥスについての理解度を問うことが出題のねらいです。アウグストゥス自身の人生や経歴について述べるだけでなく、共和政から元首政へのローマの政治体制の変化にも言及しているかが解答のポイントです。 B （1）北欧の民ヴァイキングの活動が、中世ヨーロッパに与えた影響について論じることを問うています。一般的に知られる掠奪行為に留まらず、交易を通じた経済の活性化や各地域の政治状況に与えた影響などを具体的に説明することがポイントとなります。 （2）16～17世紀にかけてヨーロッパで生じた急激な価格上昇の要因と、その影響について論じることを問うています。新大陸から流入した銀や人口増加などとの関係性を吟味し、経済面に限られない広範な影響について具体的に説明することがポイントとなります。 C （1）ウィーン会議に関して、それが西洋の近世から近代への移行を整理し、象徴するできごとであったことを論じてほしい、と思います。具体的には、同会議が開かれるのに至った背景、同会議の具体的な進行過程、会議の成果と後の歴史への影響、などが説明のポイントです。 （2）ソヴィエト連邦に関して、それが「短い20世紀」の世界史の歩みを規定した大規模な実験であったことを論じてほしい、と思います。具体的には、同連邦が第一次世界大戦にまつわる動乱の中で成立した経緯、共産主義社会建設の試み、米ソ冷戦の一方の当事者となりながら、国家として終焉を迎えた理由、などが説明のポイントです。					